

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

岩国市教育委員会

1 調査の目的

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

○全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る

○学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる

○そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査期日 令和5年4月18日(火)

(3) 調査を実施した学校・児童生徒数

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	岩国市立小学校 31校	974人
中学校第3学年	岩国市立中学校 14校	950人

(4) 調査の内容

①教科に関する調査

【小学校：国語14問 算数：16問】

【中学校：国語15問 数学：15問 英語：17問（「話すこと」5問）】

- ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。
- ・各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

②今年度の調査の特徴

- ・中学校で4年ぶり2度目となる英語の教科調査を実施。

（「話すこと」調査については、1人1台端末等を用いたオンライン方式により実施。）

- ・質問紙調査について、学校質問紙は全ての学校で、児童生徒質問紙は約80万人を対象として、オンライン方式により実施。

2 結果の概要

(1) 教科に関する結果

①平均正答率

○小学校（6年生）

	国語	算数
岩国市	67	60
全国	67.2	62.5
山口県	67	61

○中学校（3年生）

	国語	数学	英語
岩国市	69	49	43
全国	69.8	51.0	45.6
山口県	70	52	44

②全体の結果

○全国平均との比較（平均正答率）

【小学校】国語は同程度、算数は下回っている。

【中学校】国語は同程度、数学、英語は下回っている。

③教科ごとの結果

ア 小学校国語

【相当数の児童ができています点】

○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う

○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する

○文章の種類とその特徴について理解する

【課題のある点】

●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する

●漢字を文の中で正しく使う（意外）

●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる

イ 小学校算数

【相当数の児童ができています点】

○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める

○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いる

○正方形の意味や性質について理解している

【課題のある点】

- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する
- 正三角形の意味や性質について理解している
- 百分率で表された割合について理解している

ウ 中学校国語

【相当数の児童ができています点】

- 事象や行為、心情を表す語句について理解している
- 目的や場面に応じて質問する内容を検討する
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む

【課題のある点】

- 文脈に即して漢字を正しく書く
- 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える
- 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える

エ 中学校数学

【相当数の生徒ができています点】

- 問題場面における考察の対象を明確に捉える
- 数と整式の乗法の計算ができる

【課題のある点】

- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する
- 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解する
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する

オ 中学校英語

【相当数の生徒ができています点】

- 情報を正確に聞き取る
- 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読む

【課題のある点】

- 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く
- 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く
- 社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す

(2) 生活習慣や学習環境等に関する結果

①児童生徒に対する調査

【望ましい状況】

ア 子どもたちの生活習慣

- 「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る・起きる」という規則正しい生活を送っている児童生徒の割合は高い。この結果に比例し、規則正しい生活を送っている児童生徒の全国学力・学習状況調査の正答率も高くなっている。

イ 子どもたちの意識

- 「自分にはよいところがあると思う」「先生は、よいところを認めてくれている」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童生徒の割合が高く、教師の学習面、生活面に対する適切な接し方により自己肯定感の高まりがみられると考えられる。
- 「人が困っているときに進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童の割合も高く、規範意識が身に付いているともいえる。

ウ 学習

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童生徒の割合が前回調査より高くなっており、授業で主体的に考えたり、自己の学びを調整したりしようとしている姿勢が身に付いてきているといえる。
- 小学校では、「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」「話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と回答している児童の割合が県平均を上回っている。

【課題とみられる状況】

ア 家庭での学習習慣

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答している児童生徒が低く、また1日当たりの勉強時間が全国平均、県平均と比べて短くなっている。

イ 社会的事象への関心

- 「新聞をほとんど読まない、または全く読まない」と回答した児童生徒の割合は、前回調査より増加している。この結果に比例し、新聞をほとんど読まない、または全く読まない児童生徒の全国学力・学習状況調査の正答率も低くなっている。

ウ 地域との関わり

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合は全国平均、県平均と比べ低くなっている。

②学校に対する調査

【望ましい状況】

ア 学習指導

- 「家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図る」「家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える」「家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしている」と回答した学校の割合は、全国平均、県平均より上回っている。
- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている」と回答した学校の割合も、全国平均より上回っている。

イ 小中一貫教育

- 中学校区で教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定、授業研究、全国学力・学習状況調査の成果と課題等の合同研修を行っている割合は全国平均、県平均と比べて高い。

ウ 家庭や地域との連携

- 「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」と回答した学校の割合が全国平均より、また昨年度より上回っている。

【課題とみられる状況】

ア 学習指導

- 「児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しているか」に対する回答において、学校の認識と、児童生徒の認識が一致するような工夫をしていくことが課題である。

3 今後の取組

(1) 年2回の検証改善サイクルの確立

①結果の把握と分析に基づいた指導の工夫改善

- ア 成果からみたよい取組の価値付け
 - イ 誤答分析による児童生徒の思考の分析と指導方法の改善
- #### ②全学年、全教科等を対象とした課題改善に向けた計画的な取組
- ア 学力向上プランへの反映
 - イ 学校全体での取組の焦点化
 - ウ 個に応じた学習指導の改善・充実等

(2) 授業改善

①校内研修、一人一授業公開の実施

- ア 「ICTを活用した【新しい学習様式】」に則った授業の実施
 - イ 1人1台タブレット端末の効果的な活用
 - ウ 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる場の設定と実施
 - エ 授業の逆算的思考と振り返りの充実
- ②学力向上担当・研修主任会における成果と課題の共有
- ア 各学校における全校体制での取組、課題、方策の共有
 - イ 授業づくりやICT活用の好事例の紹介（Teams）
- ③若手教員に向けた自主研修会の開催
- ア 年間5回程度
 - イ 外部講師やミドルリーダーの招聘
 - ウ Teamsの活用

（3）地域との連携した取組の推進

- ①小中一貫教育の更なる推進
- ア 中学校区での目指す子ども像、学校課題等の共有
 - イ 合同授業研究会の実施
- ②学校・地域・家庭の更なる連携
- ア 「学校地域連携カリキュラム」の実践と見直し
 - イ 児童生徒の熟議への参加と地域貢献の視点
 - ウ 持続可能な取組の模索